

消毒ポイントの効率的な運営のための取組み

三八地域県民局地域農林水産部八戸家畜保健衛生所

○今井良 関合哲

当所管内は県内最大の養鶏地帯。八戸市にある東北最大の飼料穀物コンビナートから県内外へ飼料を供給するための輸送ルートは7通りと多く、最大で1日当たり100台の飼料運搬車両が通行。しかし、多くの道路は道幅が狭く引き込み路線がないことから、消毒ポイント設置に限界。今回、飼料運搬車の動線に注目して設置場所を再検討。青森県トラック協会三八支部との意見交換を基に、運搬ルート、通行量、県外への輸送を考慮し、消毒ポイント候補地を従前の110か所から26か所に厳選。管内86養鶏農場すべての消毒ポイントを事前に決めておくため、当所管轄外の消毒ポイント設置場所について、岩手県北家保と県内関係家保と協議。また、県トラック協会、県警察、県警備業協会と消毒ポイント設置に関する連絡体制を構築するとともに、消毒ポイントでの作業の検証のため、演習を実施。消毒は1台あたり平均20分間、100lの水が必要で、車両渋滞と水不足の発生を懸念。渋滞対策として、情報連絡網を活用した車両の迂回、消毒作業の遅れを解消するための作業性向上が必要。水供給には消防本部の協力を要請。また、路面凍結による交通事故対策として、警察による車両誘導の下、融雪剤散布を検討。今回の取組で、県民局、県警察、消防署及び関係団体との連携が強化。今後も継続的な意見交換や演習実施により課題を抽出し、効率的な消毒ポイント運営に向けた対策を提案していく所存。